

第 24 回

ナショナルバイオリソースプロジェクト「ゼブラフィッシュ」

運営委員会議事録

日時：2024年12月26日（木）15:00～17:00

場所：オンライン(ZOOM)

実施機関：岡本仁(理化学研究所CBS)，川上浩一(国立遺伝学研究所)，東島眞一(基礎生物学研究所)，吉原良浩(理化学研究所CBS)，久保郁(国立遺伝学研究所)，酒井則良(国立遺伝学研究所)

運営委員：石谷太(大阪大学)，伊藤素行(千葉大学)，川原敦雄(山梨大学)，菊地和(国立循環器病研究センター)，小島肇(国立医薬品食品衛生研究所)，島田康人(三重大学)，津田佐知子(埼玉大学)，成瀬清(基礎生物学研究所)，西谷直之(岩手医科大学)，日比正彦(名古屋大学)，平田普三(青山学院大学・委員長)，政井一郎(沖縄科学技術大学院大学)

N B R P：鈴木智広(NBRP事務局)，川本祥子(NBRP情報センター／国立遺伝学研究所)，小幡裕一(NBRPプログラムオフィサー)，柿沼久哉(理化学研究所CBS)，石岡亜季子(理化学研究所CBS)

文部科学省：河地雄太郎(研究振興局ライフサイエンス課)

オブザーバー：浅川和秀(国立遺伝学研究所)

(敬称略)

報告および審議

1. 会議趣旨説明(平田)

委員長より会議趣旨の説明があった。

2. 文部科学省研究振興局ライフサイエンス課よりご挨拶

河地様よりご挨拶があった。

3. 事業報告(岡本，川上，東島)

各実施機関の代表者より下記について報告があった。資料は事前にメールで委員に配布された。

(1) 事業規模の概略

(2) 2023年度の会計報告

(3) 2024年度10月までの会計報告

(4) 2023年度の事業実績

(5) 2024年度10月までの事業実績

(6) データベースの現状と更新状況

(7) その他

実施機関の会計および事業内容について承認された。

特記事項：

- ・国立遺伝学研究所より提供実費徴収価格改正の提案があり、承認された。
- ・国立遺伝学研究所より基礎技術整備に採択されデータベースの再構築を進めている旨の報告があった。
- ・提供実績の国内外の比について各機関の現状を報告した。

4. 実施機関の来年度の体制（岡本，川上）

委員長より 2023 年度末に NBRP 運営委員会の臨時メール会議を開催し、理化学研究所の体制について下記の事項が承認されている旨の説明があった。

- ・運営委員だった久保が 2024 年度から理研の分担者として実施機関側に参画すること。
- ・理研の課題管理者つまり代表を引き続き岡本が担当すること。
- ・岡本は理研の客員主管研究員という身分であり、年度ごとの身分継続の確認が必要だが、第 5 期 NBRP の期間中、岡本が理研の代表を継続すること。
- ・2024 年度は代表岡本、分担に久保、吉原という体制で実施すること。

岡本と川上よりそれぞれ 2025 年度の理化学研究所と国立遺伝学研究所の実施体制についての提案があった。

代表機関の理化学研究所は現状体制（代表：岡本、分担：吉原、久保）を継続することが承認された。

分担機関の国立遺伝学研究所は今年度で川上と酒井が定年となるため、来年度は浅川が代表の体制で実施することが承認された。

5. 近交系の維持（酒井）

酒井より India-Mishima (IM) 系統と Mishima-AB (M-AB) 系統の現状と展望の報告があった。理化学研究所と国立遺伝学研究所で維持の準備を進めていることが報告された。M-AB を維持して提供サービスを継続すること、IM については維持が困難な場合には中断する可能性があることが承認された。

6. 海外のリソース事業の動向と輸送問題(岡本、成瀬)

岡本より海外のゼブラフィッシュのリソースセンターとの関係性について報告があった。成瀬より魚の輸送に関する法律の変更と状況の変化について情報共有された。

7. ダニオネラの使用拡大（菊地）

菊地よりダニオネラの飼育と研究動向等について情報共有された。

8. 実験動物としての魚類の現状（岡本）

実験動物としての魚類について各機関の現状を共有し、今後の動向を注視することとした。

9. 第18回ゼブラフィッシュ国際会議(IZFC2024)でのNBRP事業の広報(岡本)

岡本よりIZFC2024でNBRPのブースを出展してNBRP事業の広報活動およびユーザーからの意見聴取を行ったことが報告された。

10. その他

次回の運営委員会開催について審議した。